

弥生時代の日本と朝日遺跡

1 農耕社会の成立と弥生時代の遺跡



朝日遺跡—東海地方最大規模の弥生集落—

朝日遺跡は、清須市・名古屋市西区にかけて所在する弥生時代の大規模な環濠集落である。これまでに、逆茂木・乱杭、環濠などからなる強固な防御施設が発見され、「戦乱の弥生時代」を特徴付ける遺跡として有名になった。

複数の居住域、墓域の他、玉作りの工房跡、埋納された銅鐸など重要な発見が相次ぎ、東海地方を代表する弥生集落としてその名が知られるようになった。

発掘調査では膨大な量の遺物が出土し、これらの出土品のうち2,028点は、弥生時代の多様な生業、生産・流通の様相を考え、精神生活を推察するうえできわめて重要な資料として評価され、国の重要文化財に指定されている。

①吉野ヶ里遺跡
弥生時代の代表的な環濠集落。特別史跡。

②菜畑遺跡
縄文時代晩期にさかのぼる水田跡、農具が出土した。

③原の辻遺跡
大陸への窓口となる拠点集落。朝鮮半島由来の遺物が出土している。

④荒神谷遺跡
銅剣、銅矛、銅鐸など大量の青銅器が埋納されていた。

⑦八日市地方遺跡
日本海側の拠点集落で、木製品、玉作り関連資料が多く出土した。



⑤池上曽根遺跡
大型掘立柱建物、井戸などが発掘された。

⑧登呂遺跡
日本で初めて水田跡が発見され、竪穴住居、高床倉庫、様々な木製農具が発掘された。特別史跡。

⑥唐古・鍵遺跡
木製農具、炭化米などが出土し、弥生時代に農耕が行われていたことを証明した。弥生土器編年の標識となっている。

⑪垂柳遺跡
弥生時代に東北地方で稲作が行われていたことが証明された。

⑩弥生二丁目遺跡
最初に弥生土器が発見された地点を含む。現在の東京大学キャンパスに「弥生式土器発掘ゆかりの地」の碑がある。

⑨大塚・歳勝土遺跡
弥生時代中期の環濠集落と墓域が発掘された。

史跡貝殻山貝塚

朝日遺跡の南西部で、最初に人々が生活を始めた場所。貝殻山貝塚をはじめ複数の貝塚が見つまっている。

尾張地域の最初の弥生集落の一つとされ、弥生時代初期の西日本と東日本の関係を知る重要な遺跡として、国の史跡に指定されている。



貝殻山貝塚

稲作の伝来

最初にイネの栽培が始まったのは、中国の長江中下流域と推定されている。イネにはジャポニカとインディカの2種類が知られているが、中国ではジャポニカ種の栽培が古くから行われ、日本列島にも伝えられた。

日本における本格的な稲作の開始は紀元前5世紀頃とされており、最初九州北部に伝えられ、中国地方、近畿地方、東海地方へと広がっていた。弥生時代の早いうちに、東北地方まで伝わった痕跡がみつまっている。



朝日遺跡出土の炭化米

弥生時代の特徴

- ・縄文時代晩期、北部九州に水田稲作技術が伝来した。西日本に稲作が普及し、本格的な農耕社会を形成し、東日本にも広がっていた。初期の弥生文化は伊勢湾周辺まで達したと考えられている。
- ・水田稲作のほか、大陸系磨製石器、金属器、機織りなどの大陸文化が伝来し、在来の縄文系文化と融合し、弥生文化が成立した。
- ・農耕が定着すると、余剰生産や水利をめぐる争いから、各地に環濠集落や高地性集落が出現した。
- ・弥生時代は、利器の材質が石器から鉄器へとかわり、土木、農耕の生産性が向上した。
- ・大陸からもたらされた青銅器の鑄造技術により、銅鐸や銅剣などの青銅製祭器が発達し、これらを用いた宗教儀礼が行われた。
- ・弥生時代後期には、各地に小国家が生まれ、交流と戦いを繰り返す。しだいに政治的にまとまっていった。小国家のなかには、中国に朝貢外交を行い、銅鏡など威信財をえるものも現れた。

2 弥生土器の形態

■土器の種類

農耕の開始とともに土器の種類にも変化がみられる。
貯蔵用の壺、煮炊き用の甕がおもなもので、食物を盛り付けた高杯、鉢などがある。

主な弥生土器の種類と使用法



壺



甕 (かめ)



高杯 (たかつき)



貯蔵



煮炊き



盛り付け



弥生時代後期の土器

3 弥生時代の道具と技術

■稲作のための道具

弥生時代には、稲作の伝来とともに、水田を営むための様々な農具や技術がもたらされた。
この時代の道具には、クワやスキのように、現代まで形を変えずに受け継がれているものもある。



耕作

クワ・スキ。土を掘り起こすための道具で、目的に合わせさまざまな形状のものが用いられた。



収穫

イネの穂を摘み取るための石包丁。大陸系の磨製石器である。イネの根株を刈り取ったり、除草のための大型の刃器もある。



脱穀

穂を臼に入れ、竪杵でつくことで、粃、粃殻あを取り除いた。



円窓付土器



復元した土器による炊飯



木製農具



石器・収穫具



■狩りや漁の道具

弥生時代は、水田による稲作が生業の基礎となる一方で、狩猟や漁労も重要な食料獲得の手段であった。

朝日遺跡では、稲作以外にも食に関わる様々な遺物がみつまっている。居住域縁辺には多くの貝塚が残されており、ハマグリ、カキなどの貝類の他、海水魚・淡水魚の魚骨、シカ・イノシシなどの動物の骨が出土している。狩猟・漁労に用いられた石器、骨角器などの道具からは、多様な手段を用いた生業の様子をうかがうことができる。



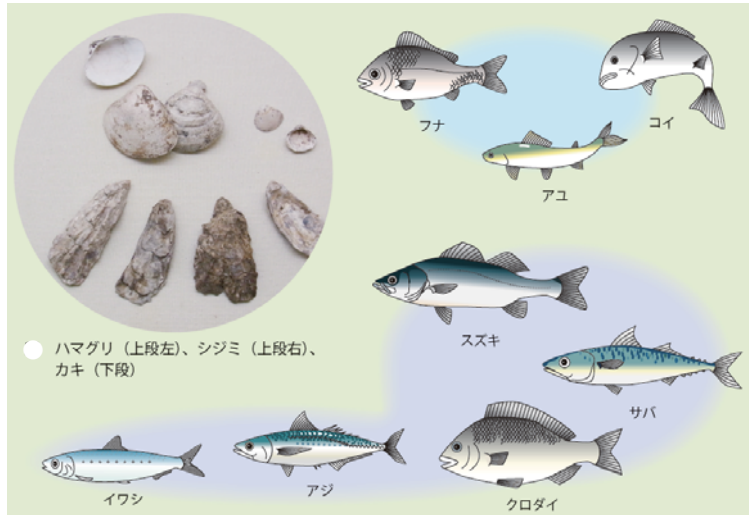
モリ・ヤス

魚を捕るためのモリ、ヤスの先端部は、鹿の角や骨を削って作られた。骨角製の釣り針もみつまっている。



石鏃が刺さったシカの骨

シカの腰椎骨に石のヤジリが刺さった状態で出土した。CT スキャンによる分析の結果、2cm 弱の小型の石鏃で、矢は、ほぼ水平に、シカの右前方から射られたことが判明した。



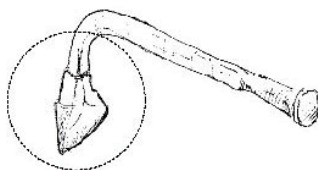
朝日遺跡出土の魚貝類



ヤナ

魚を追い込んで捕獲するための施設。居住域の外縁をめぐる水路のなかに設置されていた。現在のところ、日本最古のヤナ遺構である。

■生活のための道具



石斧と斧の柄

上の写真は木を伐採するための石斧とその柄、下の写真は木材を削ったり加工したりするための加工斧と柄。

鉄斧

弥生時代後期以降、石斧、石鏃などの石製の利器はほとんどみられなくなる。かわりに鉄製の利器が普及していったとみられている。



布を織る

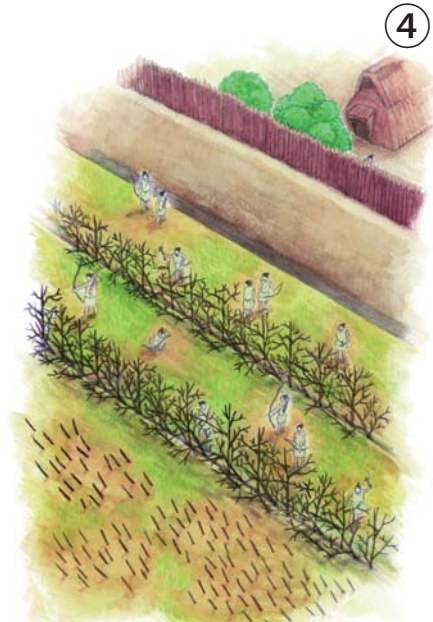
弥生時代には布を織る技術ももたらされた。上は糸を紡ぐ紡錘車と骨製の縫い針。下は土器の底に残された布目の痕。

4 外敵に備えた集落

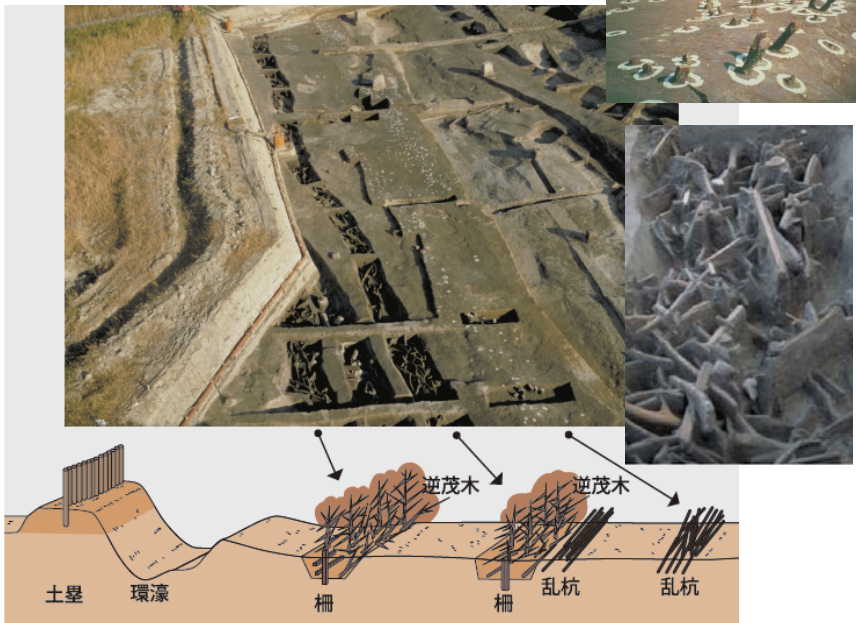
弥生時代になると、人々の間に貧富の差が生まれ、土地や水をめぐり集落の対立から戦争が起こるようになったと考えられている。

弥生時代の石鏃には縄文時代のものに比べ大型化したものが多く、これを狩猟具から武器へと発展したと解釈する意見もある。また、戦いに備え環濠をめぐらした集落があらわれ、武器を模した祭器も出現した。

朝日遺跡では、環濠に加え、逆茂木・乱杭といった多重の防御施設が全国でも最初に発見され、それまでの牧歌的な弥生時代のイメージを「戦乱の弥生時代」へと大きく変えていくことになった。



防御施設と戦いの復元イラスト



多重防御施設の構造

居住域をめぐり環濠の外に、枝のついた木をからめ並べた柵列（逆茂木）、斜めに杭を打ち込んだ乱杭列が配置されていた。



石剣

5 墳墓と埋葬の地域性

弥生時代の墓は地域や時期ごとに形態が異なりそれぞれの特徴がみられる。九州の支石墓や甕棺墓。山陰地方から北陸地方にかけてみられる四隅突出型墳丘墓、関東東北の再葬墓などが知られている。

ここでは朝日遺跡の出土例をもとに東海地方の主な墓の形態をみてみよう。

■墓の種類



土坑墓と人骨



方形周溝墓



土器棺

6 弥生人の祭祀

弥生時代の信仰や儀礼に関わるとみられる資料も数多く出土している。



鳥形土製品

鳥は穀霊を運ぶ神の使いとして信仰されていた。農耕の儀礼に用いられたものであろう。

ト骨

火のついた棒でシカなどの肩甲骨の表面を焼き、焦げたあとで吉凶などをうらなつたものの。



7 弥生時代の青銅器

弥生時代に大陸からもたらされた技術のうち、青銅器や鉄器など金属を加工する技術は当時の最先端のハイテクであった。

青銅器は実用的な利器としてよりも、祭器として発達した。日本各地で見つかった銅鐸は、我が国独自の祭器で、弥生時代を象徴する青銅器である。

朝日遺跡からは、居住域の縁辺に穴を掘って横倒して埋納された銅鐸が発見されている。



朝日銅鐸

高さ 46.3cm、幅 26.3cm。弥生時代中期末から後期初頭に製作されたとみられ、後に東海地方で盛行する三遠式銅鐸の前身となる特徴もっている。

朝日遺跡からは他にも、銅鐸の飾耳の破片、初期の銅鐸の鋳型の一部などもみつかった。



その他の青銅器

左から破鏡、銅鏡、巴形銅器。

青銅器の鋳造

青銅器は高熱で溶かした銅を鋳型に流し込んで製作する。朝日遺跡からは、銅滴（鋳型に流し込む際にこぼれた銅の塊）が出土しており、集落で青銅器の鋳造も行われていたようだ。



銅滴



青銅器の鋳造風景

8 美術工芸品としての出土品

朝日遺跡からは、土器・土製品、木器・木製品、石器・石製品、骨角牙貝製品、金属製品、ガラス製品など様々な種類の遺物が出土している。これらの出土品は、美術工芸品としてもたいへん優れているだけでなく、弥生時代の生活文化、技術を知るためにきわめて重要であることから、平成 24 年に国の重要文化財に指定され、大切に保管されている。



赤彩土器



骨角製のアクセサリー



勾玉・管玉

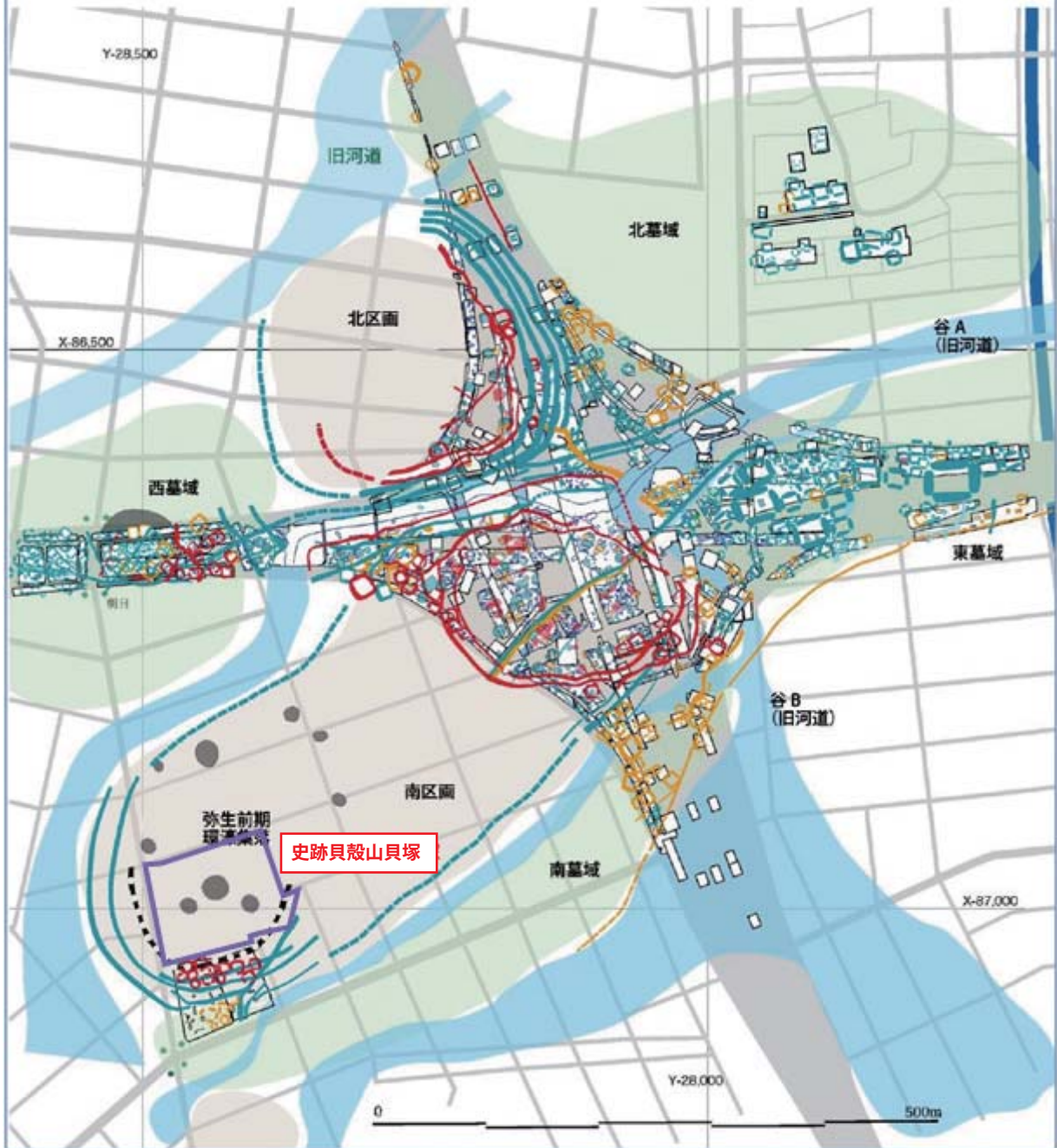


ユハズ形角製品

9 朝日遺跡の集落景観

■ 弥生時代前期
■ 弥生時代中期
■ 弥生時代中期後葉
■ 弥生時代後期～

6



愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

住所：〒452-0932

愛知県清須市朝日貝塚 1

電話：052-409-1467

開館日：木・金・土・日

(休館日：月・火・水・祝日・年末年始)

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 4 時

<交通案内>

(株) 東海交通事業城北線「尾張星の宮駅」から徒歩 10 分

名鉄名古屋本線「新清洲駅」から徒歩 30 分

JR 東海道本線「清洲駅」から徒歩 35 分

名古屋第二環状自動車道「清洲東 I C」から車で約 5 分

編集・発行 愛知県教育委員会文化財保護室

